

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 31 年 3 月 17 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	柴田翔平

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本モンキーセンター
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物園・博物館実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 31 年 2 月 2 日 ~ 平成 31 年 2 月 4 日 (3 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
日本モンキーセンター 伊谷原一教授 (日本モンキーセンター園長)、新宅勇太特定助教
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果 : 長さ自由)
<p>本実習は、PWS の 3 つの出口のうちの一つである「博士学芸員」の仕事について学ぶとともに、霊長類及びワイルドライフサイエンスの環境教育の実践に触れることを目的として行われた。</p> <p>スケジュール 2/2 日本モンキーセンターにて集合、博物館に関するレクチャー、解剖見学、標本整理 2/3 飼育実習、来園者調査、学芸員や動物園の役割に関するレクチャー 2/4 獣医師による治療見学、モンキーセンターにおける研究活動、展示手段に関するレクチャー</p> <p>一日目の午前は、園長の伊谷先生より日本の霊長類学および日本モンキーセンターの歴史に関するレクチャーを受けた。その後、新宅先生から剥製や骨格標本に関する説明を受け、標本作成過程のカニクイザルの解剖を見学した。博物館で保管される標本が、その生物の形態を視覚的に知るためだけでなく、その質感を知るためにも非常に重要な役割を持つことを実際に毛皮標本に触れる事で学んだ。また、骨格標本の整理を体験し、生物種によって骨格の一つ一つの大きさが大きく異なる事、その整理には細心の注意が必要とされる事を学んだ。</p> <p>二日目の午前は、二つのチームに分かれて飼育作業の一部を体験させていただいた。自分はマンドリルの飼育ケージの清掃と、チンパンジーのフィーダー作りを行った。飼育に関する仕事には体力が、飼育動物の環境エンリッチメントを考える上では創造性が必要になり、より良い飼育環境を作っていく上で、飼育員には非常に多くのものが求められる事を感じた。午後には来園者調査を行い、自分はチンパンジーのエンクローチャーを訪れる来園者の滞在時間や会話を調べた。自身の予想に反し、ほとんどの来園者が 2 分と滞在せず、別の展示へと移動していった。来園者が何を求めてそれぞれの展示を訪れ、何を見て何を考えるのかといった事を動物園側の視点で考えたのは初めての経験であった。</p> <p>三日目は、獣医師の先生によるシシオザルの麻酔と治療を見学した。その後、日本モンキーセンターで行われている研究活動や、動物の展示に関するレクチャーを受けた。モンキーセンター内は何度も見て回ったことがあったが、展示に関するレクチャーを受けた後園内を回ると、各所で施されている工夫に気づくことができた。</p> <p>この実習を通して、動物園の運営には飼育、研究、教育といった様々な専門家が関わり合っていることを学んだ。動物園における飼育方法やエンリッチメントに関する様々な議論や批判が生じる今日、動物園運営に関わるすべての人々が積極的に協力していくことが重要であると改めて感じた。自分も自身の研究活動に励みながら、対象種の飼育環境の更なる改善の道を模索していきたいと思う。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真.1 同じ方向を見つめるチンパンジーたち



写真.2 ニシゴリラのタロウさん

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて行われました。伊谷教授、新宅特定助教、他の実習参加者のみなさまに感謝申し上げます。